

## 「小学校国語・書写」学習指導要領新旧対照表

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>第1 目標</p> <p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p>	<p>第1 目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<p>教科の目標が、資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され、示されている。</p> <p>(1) 知識及び技能</p> <p>(2) 思考力、判断力、表現力等</p> <p>(3) 学びに向かう力、人間性等</p>
<p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p> <p>(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p>	<p>各学年の目標が、教科の目標に準じて、資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され、示されている。</p> <p>(1) 「知識及び技能」に対応</p> <p>(2) 「思考力、判断力、表現力等」に対応</p> <p>(3) 「学ぶに向かう力、人間性等」に対応</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>2 内 容</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。】</p> <p>【2 内容 A (1) ウ <u>姿勢や口形</u>、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (エ) 長音、拗（よう）音、促音、撥（はつ）音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、</p>	<p>2 内 容</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。</p> <p>ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年</p>	<p>新の2 内容では〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕を設置し、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の順で項目が示されている。〔知識及び技能〕では現行の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕などについてまとめており、〔思考力、判断力、表現力等〕では現行の3領域（A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと）についてまとめている。</p> <p>○「使い方」「身につける」を追加</p> <p>○「発声」を追加</p> <p>○下線部を〔知識及び技能〕(1) イへ移動</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>漸次書き，文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 第 2 学年においては，学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第 1 学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (ウ) 言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。】</p> <p>【2 内容 A (1) イ 相手に応じて，話す事柄を順序立て，丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。】</p> <p>【2 内容 C (1) ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ア (ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり，発表し合ったりすること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) 書写に関</p>	<p>においては，学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第 1 学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。</p> <p>カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。</p> <p>キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p> <p>(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。</p> <p>(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。</p> <p>イ 長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。</p> <p>ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p>	<p>○語彙拡充のための項目</p> <p>○「身近なことを表す語句」「話や文章の中で使う」「語彙を豊かにする」を追加</p> <p>○現行 2 内容 A 話すこと・聞くこと (1) から下線部移動</p> <p>【項目の新設】(情報の扱い方に関する事項)</p> <p>【項目の新設】(情報の扱い方に関する事項)</p> <p>○「共通」「相違」「事柄の順序」について記述</p> <p>○「我が国の」を追加</p> <p>○「身に付けることができるよう指導する」を追加</p> <p>○「我が国の伝統的な言語文化に親しむ」を追加</p> <p>【新設】</p>

現行（平成 20 年告示／平成 27 年道徳改訂版）	新（平成 29 年告示）	備 考
<p>する次の事項について指導する。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。】</p> <p>【2 内容 C (1) カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。】</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。</p> <p>イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、<u>丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</u></p> <p>ウ <u>姿勢や口形</u>、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。</p> <p>エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</p> <p>オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。</p>	<p>(ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。</p> <p>(イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。</p> <p>(ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。</p> <p>エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。</p> <p>ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p> <p>オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。</p>	<p>○ア及びイについて（ア）（イ）（ウ）に再編</p> <p>○文言の再編</p> <p>【新設】項目の新設</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕の中に、現行 2 内容の 3 領域（A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと）がまとめられた。</p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるように指導する」に変更</p> <p>○「伝え合うために」を追加</p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○下線部を〔知識及び技能〕(1) キへ移動</p> <p>○下線部を〔知識及び技能〕(1) イへ移動</p> <p>○現行オについて、エ及びオに再編</p> <p>○話したり、聞いたりする活動について記述</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っ て考えを一つにまとめたりすること。</p> <p>ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要 なことについて身近な人と連絡をし合っ たりすること。</p> <p>エ 知らせたいことなどについて身近な人 に紹介したり、それを聞いたりすること。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事 項について指導する。</p> <p>ア 経験したことや想像したことなどから 書くことを決め、書こうとする題材に必 要な事柄を集めること。</p> <p>イ 自分の考えが明確になるように、事柄 の順序に沿って簡単な構成を考えること。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しな がら、つながりのある文や文章を書くこ と。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、 間違いなどに気付き、正すこと。</p> <p>オ 書いたものを読み合い、よいところを見 つけて感想を伝え合うこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、 次のような言語活動を通して指導するも のとする。</p> <p>イ 経験したことを報告する文章や観察し たことを記録する文章などを書くこと。</p> <p>ウ 身近な事物を簡単に説明する文章など を書くこと。</p> <p>オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。</p>	<p>イ 尋ねたり応答したりするなどして、少 人数で話し合う活動。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関する次の事項を身に付 けることができるよう指導する。</p> <p>ア 経験したことや想像したことなどから 書くことを見付け、必要な事柄を集め たり確かめたりして、伝えたいことを 明確にすること。</p> <p>イ 自分の思いや考えが明確になるよう に、事柄の順序に沿って簡単な構成を考 えること。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しな がら、内容のまとまりが分かるように書 き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、 間違いを正したり、語と語や文と文との 続き方を確かめたりすること。</p> <p>オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の 文章の内容や表現のよいところを見付け ること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、 次のような言語活動を通して指導するも のとする。</p> <p>ア 身近なことや経験したことを報告し たり、観察したことを記録したりするな ど、見聞きしたことを書く活動。</p> <p>イ 日記や手紙を書くなど、思ったこと や伝えたいことを書く活動。</p>	<p>○話し合う活動について記述</p> <p>○「グループで」を「少人数で」に変更</p> <p>○「考えを一つにまとめたりする」を削除</p> <p><b>【削除】</b></p> <p><b>【削除】</b></p> <p>○「指導する」を「身に付けることができ るように指導する」に変更</p> <p>○「伝えたいことを明確にする」を追加</p> <p>○「思い」を追加</p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○「つながりのある」を「内容のまとまり が分かる」に変更</p> <p>○「語と語や文と文との続き方を確かめ たりする」を追加</p> <p>○自分の考えをみんなと共有する項目</p> <p>○「自分の文章の内容や表現」を追加</p> <p>○説明的な文章を書く活動について記述</p> <p>○文学的な文章を書く活動について記述</p> <p>○「日記」「思ったこと」を追加</p>

現行 (平成 20 年告示 / 平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>ア 想像したことなどを文章に書くこと。</p> <p>エ 紹介したいことをメモにまとめたり，文章に書いたりすること。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことのできる能力を育てるため，次の事項について指導する。</p> <p>イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</p> <p>ウ 場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。</p> <p>エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。</p> <p>ウ 場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。</p> <p>オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。</p>	<p>ウ 簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。</p> <p>イ 場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。</p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。</p> <p>エ 場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。</p>	<p>○創作活動について記述</p> <p>○「簡単な物語をつくる」「感じたこと」を追加</p> <p><b>【削除】</b></p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるように指導する」に変更</p> <p>○ア及びウについては，説明的な文章に関する項目</p> <p>○イ及びエについては，文学的な文章に関する項目</p> <p>○「読むこと」を「捉えること」に変更</p> <p>○「想像を広げながら読む」を「内容の大体を捉える」に変更</p> <p>○「大事な言葉や文を書き抜く」を「重要な語や文を考えて選び出す」に変更</p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○現行オについて，オ及びカに再編</p> <p>○「感想をもつ」を追加</p> <p>○自分の考えをみんなと共有する項目</p> <p>○「発表し合う」を「共有する」に変更</p> <p>○「分かったことや考えたことを述べる活動」を追加</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>イ 物語の読み聞かせを聞いたり，物語を演じたりすること。</p> <p>エ 物語や，科学的なことについて書いた本や文章を読んで，感想を書くこと。</p> <p>ア 本や文章を楽しんだり，想像を広げたりしながら読むこと。</p> <p>オ 読んだ本について，好きなところを紹介すること。</p>	<p>イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。</p> <p>ウ 学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動。</p>	<p>○「内容や感想などを伝え合ったり」を追加</p> <p>○「学校図書館などを利用」「図鑑」「説明する」を追加</p> <p>【削除】</p> <p>【削除】</p>
<p>〔第3学年及び第4学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話す能力，話の中心に気を付けて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら書こうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p>	<p>〔第3学年及び第4学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p> <p>(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p> <p>2 内 容</p> <p>〔知識及び技能〕</p>	<p>各学年の目標が，教科の目標に準じて，資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され，示されている。</p> <p>(1) 「知識及び技能」に対応</p> <p>(2) 「思考力，判断力，表現力等」に対応</p> <p>(3) 「学ぶに向かう力，人間性等」に対応</p> <p>新の2 内容では〔知識及び技能〕〔思考力，判断力，表現力等〕を設置し，〔知識及び技能〕〔思考力，判断力，表現力等〕の順で項目が示されている。〔知識及び技能〕では現行の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕などについてまとめており，〔思考力，判断力，表現力等〕では現行の3領域（A 話すこと・聞くこと，B 書くこと，C 読むこと）についてまとめている。</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ言葉の特徴やきまりに関する事項】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。】</p> <p>【2 内容A (1) ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 (ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 (エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。】</p>	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。</p> <p>ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。</p> <p>エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。</p> <p>カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。</p>	<p>○「使い方」「身につける」を追加</p> <p>○「話したり聞いたり」を追加</p> <p>○「段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて」を「改行の仕方を理解して」に変更</p> <p>○語彙拡充のための項目</p> <p>○「表現したり理解するために必要な語句を増し」を「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし」に変更</p> <p>○「語彙を豊かにする」を追加</p> <p>○「主語と述語の関係」「段落の役割」を追加</p>



現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。】</p> <p>【2 内容B (1) エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。】</p> <p>【2 内容C (1) ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ア (ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ア (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) 書写に関する次の事項について指導する。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) ア 文字の</p>	<p>キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p> <p>ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。</p> <p>(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。</p> <p>イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。</p> <p>(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。</p> <p>イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。</p> <p>ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。</p> <p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p> <p>(ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p>	<p>○「丁寧な言葉を使う」を追加</p> <p>【項目の新設】（情報の扱い方に関する事項）</p> <p>【項目の新設】（情報の扱い方に関する事項）</p> <p>○「理由や事例」「全体と中心」について記述</p> <p>○内容の取扱い2 (1) イでも取扱いあり。</p> <p>○「比較や分類の仕方」「必要な語句などの書き留め方」「引用の仕方や出典の示し方」について記述</p> <p>○「事典」を追加</p> <p>○「我が国の」を追加</p> <p>○「身に付けることができるよう指導する」を追加</p> <p>○「情景を思い浮かべたり」を削除</p> <p>○「言葉の響き」を追加</p> <p>○「知識をもつ」を「理解する」に変更</p> <p>○「指導する」を「理解し使う」に変更</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>組立て方を理解し、形を整えて書くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) イ漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) ウ点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。】</p> <p>【2 内容 C (1) カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。】</p> <p>【2 内容 C (2) オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。(再掲)】</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。</p> <p>イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、<u>丁寧な言葉を用いる</u>など適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>ウ <u>相手を見たり</u>、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。(再掲)</p> <p>エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。</p> <p>オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの</p>	<p>(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。</p> <p>オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。</p> <p>ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。</p> <p>エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。</p> <p>オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら</p>	<p>○「役立つことに気付く」を追加</p> <p>【新設】項目の新設 〔思考力、判断力、表現力等〕の中に、現行 2 内容の 3 領域 (A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと) がまとめられた。</p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるように指導する」に変更</p> <p>○「目的を意識して」を追加</p> <p>○現行イの下線部を〔知識及び技能〕(1) キへ移動</p> <p>○現行ウの下線部を〔知識及び技能〕(1) イへ移動</p> <p>○現行エをのウ・エに再編</p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○「自分の考えをもつ」を追加</p> <p>○自分の考えをみんなと共有する項目</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 学級全体で話し合っ て考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。</p> <p>ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。</p> <p>イ <u>文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。</u></p> <p>ウ <u>書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。</u></p> <p>オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。</p> <p>カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。</p>	<p>話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。</p> <p>イ 質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。</p> <p>ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。</p> <p>ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。</p> <p>オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見</p>	<p>○「考えをまとめる」を追加</p> <p>○話したり、聞いたりする活動について記述</p> <p><b>【新設】</b></p> <p>○情報収集して発表する活動について記述</p> <p>○話し合う活動について記述</p> <p>○「グループ」を追加</p> <p><b>【削除】</b></p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるように指導する」に変更</p> <p>○「関心のあること」を「経験したことや想像したこと」に変更</p> <p>○「集めた材料を比較したり分類したりして」を追加</p> <p>○下線部を新の2 内容 B (1) ウへ移動</p> <p>○下線部を新の2 内容 B (1) イへ移動</p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○「書き表し方を工夫」を追加</p> <p>○「よりよい表現」を「相手や目的を意識した表現」に変更</p> <p>○自分の考えをみんなと共有するための項目</p> <p>○「感想や意見を伝え合い」「自分の文章の</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。</p> <p>エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。</p> <p>ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。</p> <p>ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>イ <u>目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係</u>を考え、文章を読むこと。</p> <p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。</p> <p>イ <u>目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係</u>を考え、文章を読むこと。（再掲）</p> <p>エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む</p>	<p>付けること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。</p> <p>イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。</p> <p>ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。</p> <p>イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</p> <p>ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。</p> <p>エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。</p>	<p>よいところを見付ける」を追加</p> <p>○説明的な文章を書く活動について記述</p> <p>○「学級新聞」を削除</p> <p>○実用的な文章を書く活動について記述</p> <p>○創作活動について記述</p> <p>○「身近なこと」を「感じたこと」に変更【削除】</p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるように指導する」に変更</p> <p>○ア及びウについては、説明的な文章に関する項目</p> <p>○イ及びエについては、文学的な文章に関する項目</p> <p>○下線部を新の2 内容C (1) ウへ移動</p> <p>○「叙述を基に捉える」を追加</p> <p>○現行C 読むこと (1) ウを再編（新 C 読むこと (1) イ及びエ）</p> <p>○「想像して読む」を「捉える」に変更</p> <p>○現行C 読むこと (1) ウを再編（新 C 読むこと (1) イ及びエ）</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>こと。（再掲）</p> <p>オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。</p> <p>ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。</p> <p>ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。</p> <p>イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。（再掲）</p> <p>エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。</p> <p>オ <u>必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</u></p>	<p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。</p> <p>イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。</p> <p>ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。</p>	<p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○自分の考えをみんなと共有するための項目</p> <p>○現行C読むこと(2)イ、ウを再編(新 C読むこと(2)ア及びウ)</p> <p>○説明的文章を読む活動の例について記述</p> <p>○「図鑑や事典」「意見を述べたりする」を追加</p> <p>○文学的文章を読む活動の例について記述</p> <p>○「感想を述べ合う」を「内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする」に変更</p> <p>○現行C読むこと(2)イを再編(新 C読むこと(2)ア及びウ)</p> <p>○情報を活用して読む活動の例について記述</p> <p>○「学校図書館などを利用」「分かったことなどをまとめて説明する」を追加</p> <p><b>【削除】</b></p> <p><b>【削除】</b></p> <p>○下線部を〔知識及び技能〕(3)オへ移動</p>
<p>〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話</p>	<p>〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p>	<p>各学年の目標が、教科の目標に準じて、資質・能力の三つの柱に対応するかたちで整理され、示されている。</p> <p>(1)「知識及び技能」に対応</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p> <p>2 内 容 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ言葉の特徴やきまりに関する事項】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (7) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (7) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中</p>	<p>(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p> <p>2 内 容 〔知識及び技能〕</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。</p> <p>ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。</p> <p>エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されて</p>	<p>(2) 「思考力、判断力、表現力等」に対応</p> <p>(3) 「学ぶに向かう力、人間性等」に対応</p> <p>新の2 内容では〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕を設置し、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の順で項目が示されている。〔知識及び技能〕では現行の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕などについてまとめており、〔思考力、判断力、表現力等〕では現行の3領域（A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと）についてまとめている。</p> <p>○「使い方」「身につける」を追加</p> <p>【新設】言葉の働きや特徴に関する項目として、相手とのつながりをつくる働きについて記述</p> <p>○「文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに」を追加</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(エ)語句の構成、変化などについての理解を深め、また、<u>語句の由来</u>などに関心をもつこと。</p> <p>(ウ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。</p> <p>(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(キ)文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(ク)日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(ケ)比喩(ウ)や反復などの表現の工夫に気付くこと。】</p> <p>【2 内容C(1)ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア伝統的な言語文化に関する事項】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(ア)親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。】</p>	<p>いる漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。</p> <p>カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。</p> <p>キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。</p> <p>ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> <p>ケ 文章を音読したり朗読したりすること。</p> <p>(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。</p> <p>イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。</p> <p>(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。</p>	<p>○語彙拡充のための項目</p> <p>○現行〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(エ)の下線部を〔知識及び技能〕(3)ウへ移動</p> <p>○「思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使う」「語彙を豊かにする」を追加</p> <p>○「いろいろな構成」の詳細についての記述を追加</p> <p>○「自分の思いや考えが伝わるように」を削除</p> <p>【項目の新設】(情報の扱い方に関する事項)</p> <p>【項目の新設】(情報の扱い方に関する事項)</p> <p>○「原因と結果」などについて記述</p> <p>【項目の新設】(情報の扱い方に関する事項)</p> <p>○「情報と情報の関係付け」「語句と語句との関係」について記述</p> <p>○「我が国の」を追加</p> <p>○「身に付けることができるよう指導する」を追加</p> <p>○「内容の大体を知り」を削除</p> <p>○「言葉の響きやリズムに親しむ」を追加</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ア (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) イ (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。</p> <p>(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、<u>語句の由来などに関心をもつこと。(再掲)</u>】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1) ウ (イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。】</p> <p>【2 内容 A (1) ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。】</p> <p>【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2) 書写に関する次の事項について指導する。】</p> <p>ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>【2 内容 C (1) カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。】</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p>	<p>イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p> <p>ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> <p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。</p> <p>(ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>(イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>(ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>○「作品の内容の大体を知ったりすることを通して」を追加</p> <p>○「指導する」を「理解し使う」に変更</p> <p>○「読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付く」を追加</p> <p>【新設】項目の新設</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕の中に、現行 2 内容の 3 領域 (A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと) がまとめられた。</p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるよう指導する」に変更</p>



現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。</p> <p>イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p> <p>オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。</p> <p>イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。</p> <p>ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じ</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。</p> <p>ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</p> <p>エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。</p> <p>オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたる活動。</p> <p>イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。</p> <p>ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。</p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書</p>	<p>○「考えたことや伝えたいことなどから」を「日常生活の中から」に、「収集した知識や情報を関係付ける」を「集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」に変更</p> <p>○現行イについてを新ではア及びイに再編</p> <p>○「場に応じた適切な言葉遣いで話す」を削除</p> <p><b>【新設】</b></p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○「話の内容を捉え」を追加</p> <p>○自分の考えをみんなと共有する項目</p> <p>○「考えを広げたりまとめたりする」を追加</p> <p>○話したり、聞いたりする活動について記述</p> <p>○「資料を提示しながら説明や報告をしたり」を削除</p> <p>○情報収集と発表をする活動について記述</p> <p>○「インタビュー」を追加</p> <p>○「討論などをする」を「発表したりする」に変更</p> <p>○話し合う活動について記述</p> <p>○「指導する」を「身に付けることができるように指導する」に変更</p> <p>○「感じたこと」を追加</p>

現行 (平成 20 年告示/平成 27 年道徳改訂版)	新 (平成 29 年告示)	備 考
<p>て、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。</p> <p>イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。</p> <p>ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p>エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。</p> <p>オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p> <p>カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。</p> <p>ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくらせたり、物語や随筆などを書いたりすること。</p> <p>ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p>	<p>くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。</p> <p>ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見などを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。</p> <p>カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。</p> <p>イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</p> <p>ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう</p>	<p>○「自分の考えを明確に表現するため」を「筋道の通った文章となるように」に、「構成の効果」を「構成の展開」に変更</p> <p>○「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」を追加</p> <p>○「書き表し方を工夫する」を追加</p> <p>○「表現の効果」を「文章全体の構成や書き表し方」に変更</p> <p>○自分の考えをみんなと共有するための項目</p> <p>○「表現の仕方」を「文章全体の構成や展開」に変更</p> <p>○「自分の文章のよいところを見付ける」を追加</p> <p>○説明的な文章を書く活動について記述</p> <p>○「自分の課題について調べ」「編集したり」を削除</p> <p>○創作活動について記述</p> <p>○「詩や」「物語や随筆などを」を削除</p> <p>○事実や経験をもとに文を書く活動について記述</p> <p>○「指導する」を「身に付けることができ</p>

現行（平成 20 年告示／平成 27 年道徳改訂版）	新（平成 29 年告示）	備 考
<p>ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。</p> <p>エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。</p> <p>イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。</p> <p>オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。</p> <p>ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。</p> <p>ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。</p>	<p>指導する。</p> <p>ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。</p> <p>イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。</p> <p>ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。</p> <p>エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。</p> <p>カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。</p> <p>(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</p> <p>ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。</p> <p>イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。</p> <p>ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用し</p>	<p>るように指導する」に変更</p> <p>○ア及びウについては、説明的な文章に関する項目</p> <p>○イ及びエについては、文学的な文章に関する項目</p> <p>○「要旨を把握する」を追加</p> <p>○現行エについてイ及びエに再編</p> <p>○下線部を 2 内容 C (1) オへ移動</p> <p>○「文章と図表などを結び付ける」「論の進め方について」を追加</p> <p>○自分の考えを形成するための項目</p> <p>○現行オを再編（新のオ及びカ）</p> <p>○「自分の考えをまとめる」を追加</p> <p>○自分の考えをみんなと共有するための項目</p> <p>○現行オを再編（新のオ及びカ）</p> <p>○「まとめた意見や感想を共有」を追加</p> <p>○説明的文章を読む活動の例について記述</p> <p>○文学的文章を読む活動の例について記述</p> <p>○「詩や物語」「内容を説明」「伝え合ったりする」を追加</p> <p>○情報を活用して読む活動の例について記述</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。	て、調べたり考えたりしたことを報告する活動。	【削除】
<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>【第3 1</p> <p>(1) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導することができるようにすること。</p> <p>(2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示す事項については、相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。その際、<u>学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、児童が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。</u></p> <p>【第3 2 (1) ア 特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。】</p>	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。</p> <p>(2) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりするなどして、弾力的に指導すること。</p> <p>(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。</p>	<p>【新設】資質・能力の育成に向けた、主体的・対話的で深い学びの実現に関する記述を追加。</p> <p>○「指導することができるようにする」を「指導する」に変更</p> <p>○10分から15分程度の短い時間を活用した指導（短時間学習）に関する記述を追加。</p> <p>【<b>新の2</b> 内容では〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕を設置し、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の順で項目が示されている。〔知識及び技能〕では現行の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕などについてまとめており、〔思考力、判断力、表現力等〕には現行の3領域（A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むこと）についてをまとめている。】</p> <p>○現行の下線部を、第3 指導計画の作成と内容の取扱い2 (2) 及び (3) へ移動</p>

現行（平成 20 年告示／平成 27 年道徳改訂版）	新（平成 29 年告示）	備 考
<p>【第 3 1</p> <p>(3) 第 2 の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、計画的に指導する機会が得られるように、第 1 学年及び第 2 学年では年間 35 単位時間程度、第 3 学年及び第 4 学年では年間 30 単位時間程度、第 5 学年及び第 6 学年では年間 25 単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。</p> <p>(4) 第 2 の各学年の内容の「B 書くこと」に関する指導については、第 1 学年及び第 2 学年では年間 100 単位時間程度、第 3 学年及び第 4 学年では年間 85 単位時間程度、第 5 学年及び第 6 学年では年間 55 単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。</p> <p>(5) 第 2 の各学年の内容の「C 読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。<u>学校図書館の利用に際しては、本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。</u></p> <p>(6) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第 1 学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。</p>	<p>(4) 第 2 の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、計画的に指導する機会が得られるように、第 1 学年及び第 2 学年では年間 35 単位時間程度、第 3 学年及び第 4 学年では年間 30 単位時間程度、第 5 学年及び第 6 学年では年間 25 単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。</p> <p>(5) 第 2 の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」に関する指導については、第 1 学年及び第 2 学年では年間 100 単位時間程度、第 3 学年及び第 4 学年では年間 85 単位時間程度、第 5 学年及び第 6 学年では年間 55 単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。</p> <p>(6) 第 2 の第 1 学年及び第 2 学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第 3 学年及び第 4 学年、第 5 学年及び第 6 学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。</p> <p>(7) 低学年においては、第 1 章総則の第 2 の 4 の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。</p> <p>(8) 言語能力の向上を図る観点から、外国語活動及び外国語科</p>	<p>○A 話すこと・聞くことに関する指導の時間は変更なし (第 1・2 学年では年間 35 単位時間程度、第 3・4 学年では年間 30 単位時間程度、第 5・6 学年では年間 25 単位時間程度)</p> <p>○B 書くことに関する指導の時間は変更なし (第 1・2 学年では年間 100 単位時間程度、第 3・4 学年では年間 85 単位時間程度、第 5・6 学年では年間 55 単位時間程度)</p> <p>○現行の下線部を、第 3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (3) へ移動</p> <p>○幼稚園教育要領等との関連、入学時の生活科などとの学習の関連等、スタート・カリキュラムに関する項目の追加</p> <p>【新設】外国語活動・外国語科等との関連を</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>(7) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。】</p> <p>【第3 2 第2の各学年の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(1) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。】</p> <p>【第3 2 (1) ウ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当</p>	<p>など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。</p> <p>(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。</p> <p>(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 〔知識及び技能〕に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>ア 日常の言語活動を振り返ることなどを通して、児童が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。</p> <p>イ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにすること。</p> <p>ウ 第3学年におけるローマ字の指導に当たっては、第5章総合的な学習の時間の第3の2の(3)に示す、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、児童が情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図られるようにすること。</p> <p>エ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に</p>	<p>追加</p> <p>【新設】障害のある児童などへの配慮に関する記述を追加。</p> <p>○日常の言語活動との関係付けについて記述</p> <p>○現行第3学年及び第4学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(カ)から移動</p> <p>○「事典」を追加</p> <p>○コンピュータ入力のための機器の操作・活用への配慮についての記述を追加</p>

現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>該学年以降の学年において指導することもできること。</p> <p>(イ) 当該学年より後の学年に担当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。】</p> <p>(ウ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。】</p> <p>【第3 2 (1) イ 伝統的な言語文化に関する指導については、各学年で行い、古典に親しめるよう配慮すること。】</p> <p>【第3 2 (2) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること。】</p> <p>【第3 1 (2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に示す事項については、相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。その際、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、児童が</p>	<p>該学年以降の学年において指導することもできること。</p> <p>(イ) 当該学年より後の学年に担当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。</p> <p>(ウ) 他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。</p> <p>(エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。</p> <p>オ 各学年の(3)のア及びイに関する指導については、各学年で行い、古典に親しめるよう配慮すること。</p> <p>カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>(ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。</p> <p>(イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。</p> <p>(ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。</p> <p>(エ) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。</p> <p>(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。</p>	<p>【新設】都道府県名に用いる漢字の社会科学習との関連などについて記述</p> <p>○書写についての記述を(ア)(イ)(ウ)に再編</p> <p>【新設】</p> <p>○現行第3 1 (2)の下線部から移動</p> <p>○下線部について、(2)及び(3)に再編</p> <p>○コンピュータや情報通信ネットワークの活用機会を設けることについての項目</p>

現行（平成 20 年告示／平成 27 年道徳改訂版）	新（平成 29 年告示）	備 考
<p>情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。】</p> <p>【第 3 1 (5) 第 2 の各学年の内容の「C 読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。学校図書館の利用に際しては、本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。】</p> <p>【第 3 3 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと的能力及び読むこと的能力などを偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第 2 の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの (2) に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。</p> <p>(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。</p> <p>ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>エ 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役</p>	<p>(3) 第 2 の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。</p> <p>3 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>(1) 教材は、第 2 の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第 2 の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの (2) に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。</p> <p>(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。</p> <p>ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>エ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役</p>	<p>【新設】</p> <p>○現行第 3 1 (2) 及び (5) の下線部から移動</p>



現行（平成20年告示／平成27年道徳改訂版）	新（平成29年告示）	備 考
<p>立つこと。</p> <p>カ 生命を尊重し，他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。</p> <p>キ 自然を愛し，美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。</p> <p>ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。</p> <p>ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家，社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>コ 世界の風土や文化などを理解し，国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>(3) 第2の各学年の内容の「C読むこと」の教材については，説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。】</p>	<p>立つこと。</p> <p>カ 生命を尊重し，他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。</p> <p>キ 自然を愛し，美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。</p> <p>ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。</p> <p>ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家，社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>コ 世界の風土や文化などを理解し，国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>(3) 第2の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の教材については，各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。また，説明的な文章については，適宜，図表や写真などを含むものを取り上げること。</p>	<p>○説明的な文章における図表・写真との関連の項目</p>

学年別漢字配当表 (1,006 字→ 1,026 字)

第1学年 (80 字)																				変更なし											
一 空 車 千 二	右 月 手 川 日	雨 犬 十 先 入	円 見 出 早 年	王 五 女 草 白	音 口 小 足 八	下 校 上 村 百	火 左 森 大 文	花 三 人 男 木	貝 山 水 竹 本	学 子 正 中 名	気 四 生 虫 目	九 糸 青 町 立	休 字 夕 天 力	玉 耳 石 田 林	金 七 赤 土 六	一 空 車 千 二	右 月 手 川 日	雨 犬 十 先 入	円 見 出 早 年		王 五 女 草 白	音 口 小 足 八	下 校 上 村 百	火 左 森 大 文	花 三 人 男 木	貝 山 水 竹 本	学 子 正 中 名	気 四 生 虫 目	九 糸 青 町 立	休 字 夕 天 力	玉 耳 石 田 林
第2学年 (160 字)																				変更なし											
引 角 近 光 矢 場 前 通 肉 每	羽 楽 兄 考 姉 色 組 弟 馬 妹	雲 活 形 行 思 食 走 店 売 万	園 間 計 高 紙 心 多 点 買 明	遠 丸 元 黄 寺 新 太 電 麦 鳴	何 岩 言 合 自 親 体 刀 半 毛	科 顔 原 谷 時 図 台 冬 番 門	夏 汽 戸 国 室 数 地 当 父 夜	家 記 古 黒 社 西 池 東 風 野	歌 帰 午 今 弱 声 知 答 分 友	画 弓 後 才 首 星 茶 頭 聞 用	回 牛 語 細 秋 晴 昼 同 米 曜	会 魚 工 作 週 切 長 道 步 来	海 京 公 算 春 雪 鳥 読 母 里	絵 強 広 止 書 船 朝 内 方 理	外 教 交 市 少 線 直 南 北 話	引 角 近 光 矢 場 前 通 肉 每	羽 楽 兄 考 姉 色 組 弟 馬 妹	雲 活 形 行 思 食 走 店 売 万	園 間 計 高 紙 心 多 点 買 明		遠 丸 元 黄 寺 新 太 電 麦 鳴	何 岩 言 合 自 親 体 刀 半 毛	科 顔 原 谷 時 図 台 冬 番 門	夏 汽 戸 国 室 数 地 当 父 夜	家 記 古 黒 社 西 池 東 風 野	歌 帰 午 今 弱 声 知 答 分 友	画 弓 後 才 首 星 茶 頭 聞 用	回 牛 語 細 秋 晴 昼 同 米 曜	会 魚 工 作 週 切 長 道 步 来	海 京 公 算 春 雪 鳥 読 母 里	絵 強 広 止 書 船 朝 内 方 理
第3学年 (200 字)																				変更なし											
悪 温 級 決 指 拾 植 族 調 童 水 面 旅	安 化 宮 研 齒 終 申 他 追 農 表 問 両	暗 荷 球 鼎 詩 習 身 打 定 波 秒 役 緑	医 界 去 庫 次 集 神 対 庭 配 病 薬 礼	委 開 橋 湖 事 住 真 待 笛 倍 品 由 列	意 階 業 向 持 重 深 代 鉄 箱 負 油 練	育 寒 曲 幸 式 宿 進 第 軋 畑 部 有 路	員 感 局 港 実 所 世 題 都 発 服 遊 和	院 漢 銀 号 写 暑 整 炭 度 反 福 予	飲 館 区 根 者 助 昔 短 投 坂 物 羊	運 岸 苦 祭 主 昭 全 談 豆 板 平 洋	泳 起 具 皿 守 消 相 着 鳥 皮 返 葉	馭 期 君 仕 取 商 送 注 湯 悲 勉 陽	央 客 係 死 酒 章 想 柱 登 美 放 様	横 究 輕 使 受 勝 息 丁 等 鼻 味 落	屋 急 血 始 州 乘 速 帳 動 筆 命 流	悪 温 級 決 指 拾 植 族 調 童 水 面 旅	安 化 宮 研 齒 終 申 他 追 農 表 問 両	暗 荷 球 鼎 詩 習 身 打 定 波 秒 役 緑	医 界 去 庫 次 集 神 対 庭 配 病 薬 礼		委 開 橋 湖 事 住 真 待 笛 倍 品 由 列	意 階 業 向 持 重 深 代 鉄 箱 負 油 練	育 寒 曲 幸 式 宿 進 第 軋 畑 部 有 路	員 感 局 港 実 所 世 題 都 発 服 遊 和	院 漢 銀 号 写 暑 整 炭 度 反 福 予	飲 館 区 根 者 助 昔 短 投 坂 物 羊	運 岸 苦 祭 主 昭 全 談 豆 板 平 洋	泳 起 具 皿 守 消 相 着 鳥 皮 返 葉	馭 期 君 仕 取 商 送 注 湯 悲 勉 陽	央 客 係 死 酒 章 想 柱 登 美 放 様	横 究 輕 使 受 勝 息 丁 等 鼻 味 落

第4学年 (200字→202字)

課紀極候殘松節達堂不滿類  
貨季競好散初折隊灯標末輪  
果希鏡功産順積帯努票牧量  
加願協固参祝席孫徒必望料  
億觀共驗察周靜卒伝費法良  
塩関漁健殺種清統典飛包陸  
栄管挙建刷借省側の飯便利  
英官給結札失成束停博変浴  
印完救欠昨辞信菓底梅辺養録  
胃覚泣芸材治臣倉低敗別要勞  
困各求景最兇賞争腸念兵勇老  
位街識型菜試照然兆熱粉約連  
衣害機径差司象選貯毒副無歴  
以械器郡告史焼戦仲得府民例  
案改旗軍康氏唱浅置特付脈冷  
愛芽喜訓航士笑説単働夫未令

愛課岐極好産順席孫灯票望量  
案芽希熊香散初積帯働標牧輪  
以賀季訓候殘松折隊特不末類  
衣改旗軍康氏笑節達徳夫満令  
位械器郡佐司唱説単奈付未冷  
茨害機群差試焼浅置奈府民例  
印街議径菜兇照戦仲梨卓無連  
英各求景最治城選冲熱富約老  
栄覚泣芸埼滋縄然兆念副勇勞  
媛瀉給欠材辞臣争低敗兵要録  
塩完挙結崎鹿信倉底梅別養  
岡官漁建昨失井巢の博辺浴  
億管共健札借成束典阪変利  
加関協験刷種省側伝飯便陸  
果観鏡固察周清統徒飛包良  
貨願競功参祝静卒努必法料

○新たに加わった文字 (20字)  
○学年配当が変更となった文字 (5字)

茨岐埼縄奈 媛熊崎井梨 岡群⑤ 滋冲阪 賀⑤ 香鹿徳⑤ 卓 瀉佐城⑥ 枋富⑤

(25字)

第5学年 (185字→193字)

仮規券混師承績損独婦夢  
可寄件講枝招責率徳布務  
恩基潔興志序税属導貧暴  
桜眼経構支準製測銅評質  
往慣群鉦賛術精則統俵防  
応幹句耕酸述勢増敵備豊  
演刊禁厚雜修政像適非報  
液額均効罪授性造程肥墓領  
益確境護財謝制総提比保留  
易格許個在舍職素張版弁略  
衛解居故際質織祖築判編容  
管快旧減採識情銭断犯仏預  
永賀久現妻似常絶困破複余  
因過逆限災示状舌態能復輸  
移河義檢再飼条設貸燃武綿  
庄価技険查資証接退任富迷

仮規券混師承績損独婦夢  
可寄件講枝招責率徳布務  
恩基潔興志序税属導貧暴  
桜眼経構支準製測銅評質  
往慣群鉦賛術精則統俵防  
応幹句耕酸述勢増敵備豊  
演刊禁厚雜修政像適非報  
液額均効罪授性造程肥墓領  
益刊許護際示条設断燃復迷  
易額居個採飼賞接团任武夢  
衛確救故妻資象績態独婦務  
管格旧減災災師証責貸毒布脈  
永解久現再枝招稅損得貧暴  
因快逆限查志序製率導評質  
移過義檢混史準精属銅備防  
困河技険告支術勢測堂費豊  
庄価喜件講士述政則統非報歴

○学年配当が変更となった文字 (21字)

囿④ 紀④ 喜④ 救④ 型④  
航④ 告④ 殺④ 士④ 史④  
象④ 賞④ 貯④ 停④ 堂④  
得④ 毒④ 費④ 粉④ 脈④  
歴④

(21字)

第6学年 (181字→191字)

巻警降視熟盛臈賃俳亡覽  
千敬紅姿縮寸蔵潮肺訪卵  
株系皇私縦推操頂背宝乱  
割筋孝至従垂層庁拝暮翌  
閣勤后蚕衆仁装著派補欲  
革郷誤冊就針創忠脳片幼  
抜胸呼策宗蒸窓宙納閉優  
灰供己裁収城奏値認陞郵  
我吸巖濟樹障善暖乳並訖  
沿疑源座若傷染段難奮模  
延貴憲砂尺将洗誕届腹盟  
映揮権困捨除泉探糖秘密論  
宇机絹骨射諸專担党批幕朗  
域危穴穀磁署宣宅討否枚臨  
遺簡激刻誌処誠尊展晩棒律  
異看劇鋼詞純聖存痛班忘裏

胃干敬皇私縦推装忠認並訖  
異巻警紅姿縮寸層著納陞郵  
遺看劇降視熟盛操庁脳閉優  
域簡激鋼詞純聖蔵頂派片預  
宇危穴刻誌処誠臈腸拝補幼  
映机券穀磁署舌存潮背暮欲  
延揮絹骨射諸宣尊賃肺宝翌  
沿貴権困捨除專退痛俳乱  
恩疑憲砂尺承泉宅敵班亡卵  
我吸源座若将洗担展晩忘覽  
灰供巖濟樹傷染探討否棒裏  
抜胸己裁収障銭誕党批枚律  
革郷呼策宗蒸善段糖秘幕臨  
閣勤誤冊就針奏暖届俵密朗  
株系孝至従垂創宙乳奮模  
割筋后蚕衆仁窓値難腹盟論

○学年配当が変更となった文字 (11字)

胃④ 恩⑤ 券⑤ 承⑤ 舌⑤  
銭⑤ 退⑤ 腸④ 敵⑤ 俵⑤  
預⑤

(11字)